

## 病院図書室に看護研究指導室の機能をもたせる試み

宮本孝一

老年学情報センター非常勤司書

老年学情報センターは、東京都立の高齢者医療専門病院「東京都老人医療センター」と老化ゲノム研究と高齢者の社会参加支援研究の研究施設「東京都老人総合研究所（財団法人東京都高齢者研究・福祉振興財団）」の共用図書館である。

老年学情報センターでは、平成 17 年に、非常勤司書 2 名で、東京都老人医療センターの看護師を対象にした 1 回 1 時間のミニ講習会を企画し、実施した。16 年度末に次年度の情報センターの年間計画を話し合った際に、下記の 2 点を情報センターの課題として挙げ、その対応策として発案した企画である。

母体組織（医療センター）の組織的な事業の動きから離れた存在になりがちな状況があり、母体組織の年間事業計画に位置づくような情報センターの事業をもちたい。

グループでの看護研究が盛んだが、情報センターの看護師の利用が非常に少ない。来館者に接していると、基本的な利用方法も知られていないことがわかる。看護研究のサポートを、図書館サービスの柱の一つとして打ち出していく必要があるのではないか。

前例がなく（あったかもしれないが、その事例は受け継がれていない）、開催時期・規模・テーマ・開催までにどこにどのように話を通したらよいかなど、まったくなにもわからないゼロからの出発であった。

まずは、情報センターで講師として準備できそうな内容を挙げ、企画書（ちらしのようなもの）をつくり、各所に相談することから始めた。

そこで挙げた講習会のテーマは、下記の通りである。

情報センターのガイダンス（文献検索から入手までの流れ。その他、設備やサービスの説明）

医中誌 Web の使い方

抄録を Word でまとめる際の手順と、使う機能

Word で、掲示物・配布物を作る際のビジュアル効果のコツ

ここで、いわゆる利用者教育の観点からすれば、図書館の利用方法や医中誌 Web などの文献データベースの利用法指導が、図書館の守備範囲ということになるだろうが、そこに、「ワープロソフトでの抄録（原稿）の作り方」という要素を加えた。

これは、情報センターに、“看護研究指導室”という機能を加えたらどうか、という考えからである。専門図書館一般がどのような状況かはわからないが、病院図書館（室）の司書スタッフの場合は、司書業務以外の仕事も兼ねている例がある。カルテ管理や LAN の管理など。同様に兼任として看護研究指導という機能をもつたらと発想してみた。それは、司書の役割、あるいは、図書館サービスという枠からの逸脱ではあるが、司書にとってユニークな役割をもつのではないかと思われた。

情報要求を持った人がやってきてはじめて機能が発揮される図書館（司書）という従来のあり方から、一步踏み込んで（あるいは、はみ出して）、司書が、研究プロセスの内側の、情報要求が生じ変化していくその場に同席するという機会が得られる。情報要求の発生と情報入手、その情報を得たことで研究の方向がどう動いたかを司書は目撃することができるだろう。図書館サービスの改善を、カウンターのこちら側（司書）とあちら側（利用者）という関係性でなく、利用者グループの一員でもある司書、という視点で見ていくことができるのではないか。

平成 17 年 6 月に、週 2 回・1 回 1 時間程度で、情報センターガイダンス・医中誌 Web の使い方・抄録作成等の講習会などを実施した。参加者は初回は 20 人ぐらい、その後は 10 人前後であった。

さらに 9 月～10 月に、看護研究指導の意味合いをもつ講習会として、表計算ソフト Excel を使ったデータ集計の講習会を企画した。その内容は下記の通りである。また、講習会終了後に情報センターに看護研究の相談が寄せられるようになったが、その中の相談の一つへの対応として、平成 18 年 3 月に、検定手法の講習を実施した。

#### Excel でデータ集計入門 全 7 回

関数を使ってみよう / 基本統計量を Excel で / ツールバー「集計」の使い方 / 集計の武器「ピボットテーブル」の使い方 / グラフをつくる / Excel で満足度解析 / いろいろなグラフ

#### Excel で<sup>2</sup>検定入門 全 1 回

講習会後に寄せられた相談に何日か対応した際、Excel で集計して事象の傾向が明らかになったあとに、その研究を深化させる新しい研究テーマが見つかる例があった。この場合、看護研究の最終段階での相談なのだが、思いがけず、看護研究の開始点である「研究テーマと作業仮説の設定」という場面になった。医療センター看護部事業のグループ研究としては、残念ながらこの研究はここで終了なのだが、もしそこで出た発展テーマから、先行研究の調査・・・と進行すれば、司書としてのサポートも始まることになる。研究から次の研究テーマが生まれる状況を大事にする上で、毎年行っている看護研究のあり方へ、情報センターからなにか提案できることがあるかもしれない。

看護師対象講習会やその後に寄せられるようになった看護研究相談からの、図書館サービスの改善としての具体的な効果はまだない。今年度もミニ講習会を実施するが、それが医療センターの年間研修計画に位置づいているわけではない。しかし、（おそらく、師長グループから院内の看護師への情報センターの案内もあって）、看護師の文献取り寄せ申し込み・貸出・看護研究でのグループ作業・夜間利用といった情報センターの利用は確実に増えている。看護研究についての相談も寄せられる。今年度は看護師院内研修のエキスパートコースで、文献検索と情報処理の講師も担当することになった。

今後も実績を重ねることで、企画当初の目的に近づき、また、病院図書室に看護研究指導という機能をもたせることが、「図書館業務の現状を見る司書の視点」にいかなる変化を生じさせたかという事例も出てくるのではないかと考える。